

2022（令和4）年度決算について

学校法人大手前学園
理事長 福井 要

2022（令和4）年度学校法人大手前学園の決算は、東陽監査法人並びに監事の監査を経たうえで、2023年5月24日（水）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

【決算概要】

(1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2022年度の決算は収入の部合計で、2億63百万円増の119億45百万円となりました。これは、学生生徒等納付金収入や資産売却収入などが当初の予想よりも上回ったことによるものです。

一方、支出の部では主とし設備関係支出が当初の予想より下回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で2億83百万円の減少となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、5億46百万円増の31億30百万円となりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が11億7百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が9億25百万円の支出超過、一方でその他の活動による資金収支差額が14億70百万円の支出超過となりました。これにより、支払資金の増減額は12億88百万円の減少となりました。

(2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は76百万円増の64億72百万円、事業活動支出計は1億23百万円減の63億91百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より1億99百万円多い81百万円の収入超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で学生生徒納付金の増加により、57百万円増の63億46百万円となりました。一方で支出面は、主として管理経費の減少により、1億5百万円減の61億48百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より1億62百万円増の1億98百万円の収入超過となりました。

教育活動外収支は、収入の部で受取利息・配当金が予算より上回ったことから、教育活動外収支差額は、15百万円収入増の59百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面で現物寄付によるその他の特別収入が、4百万円増加したものの、支出面で資産処分差額が31百万円増となったため、特別収支差額は、28百万円支出増の1億76百万円の支出超過となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、保有不動産の整理や減価償却に伴い3億97百万円減少しました。

一方で、特定資産が5億25百万円増加したことや有価証券の購入を主因にその他の固定資産が8億93百万円増加したことにより、固定資産全体では10億22百万円の増加となりました。

流動資産は、現金預金の減少等により14億32百万円の減少となりました。

結果として、総資産額では、4億11百万円減の417億62百万円となりました。

負債の部では、借入金の返済等により、負債合計で4億91百万円の減少となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して81百万円増の370億59百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より1.0ポイント増の88.7%となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上